

天溪の国内ツアー「2022 年 4 月 発 世界遺産の小笠原諸島」

コロナ・オミクロン騒動が落ち着き始めた 4 月下旬（4 月 22 日～4 月 27 日）世界遺産の小笠原諸島に出掛けました。スキューバダイビングやシーカヤックなどのマリンスポーツが本格化するゴールデンウィーク前に、母島の乳房山、父島の南島や千尋岩(ハートロック)をハイキング。それにアラスカ方面に北上する前の鯨をウォッチングしてきました。一週間前 4 月としては小笠原の観測史上最高の台風 1 号が直撃。登山道の損壊が心配されましたが草木の塩枯れや木の葉が舞い落ちた程度で殆ど無傷。一方、大シケでクジラの逃避が心配されましたが、まだまだいてくれました。余談ですが私は内地に戻り 2 日間ほどお休みをいただき、今度は雪一杯の燕山荘春山ツアーのガイドです。天溪の本業、海外ハイキングは残念ながら令和の開国は遠く、日本の夜明けはもう暫く辛抱です。



(千尋岩手前)

○小笠原島へ

目的地の小笠原は東京の南 1,000Km に浮かぶ世界遺産の島で、おがさわら丸(11,000 トン) で 24 時間。出航前夜からの雨が上がり、すがすがしい 4 月晴れの中を小笠原の父島に向けヨーソロー。

本船はレインボーブリッジを潜り、海ボタルを眺め、さらに久里浜沖で五合目上部が真白な富士山を見ながら南下。父島の二見港に翌日 11 時到着。ははじま丸に乗換え、さらに 2 時間の航海で漸く母島へ。母島は父島の南 50Km に位置し果物や野菜が美味しい所。この季節はパッションフルーツの収穫時期、なおこの果実は落とすと酸味が強まるそうです。



(レインボーブリッジ直下)



(ちちじま丸)

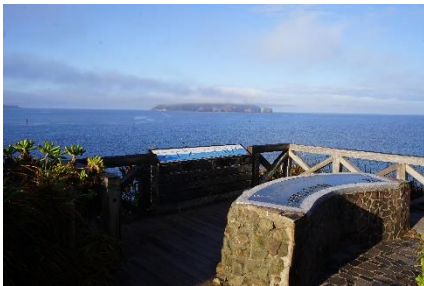


(二見港)



(ははじ丸)

(母島)



(あおうみ亀)

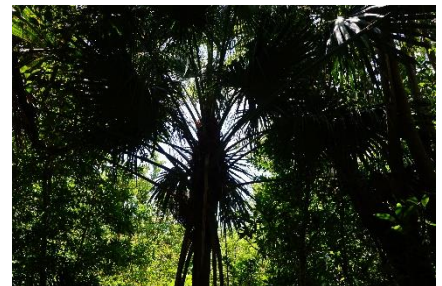
○乳房山ハイキング

ペンションを 7:30 出発し乳房山(463m)へ。シダが生い茂り恰も NZ のミルフォードトラックの雰囲気。(ミルフォード南緯 45 度、母島北緯 26 度) 頂上は天気が悪くても 10 時頃から霧がかかるそうですがこの日は快晴。下山時、駐車場まで僅かな所で 1 名が熱中症に。コロナ禍で 2 年以上自粛が続くとチョットした事で体調不良が生じます、要注意ですね！



(乳房山の道中)





(ミルフォードトラック風)

○南島とホエールウォッチング

世界自然遺産に登録され、上陸するのに人数制限が有る南島へ。天然記念物のカタマイマイの化石や亀が産卵のために付けたキャタピラー模様のトレースが島の趣を誘います。そしてホエールウォッチングへ。塩を吹く 2 頭のクジラを見ることが出来て主催者は安堵。近年は水温が上がリクジラの北上が早まっているそうです。

今日 1 日ダイビングサービス・カイジンの山田さんに案内していただきました。山田さんとはかれこれ 40 年のお付き合い。スキューバダイビングを日本に普及させた名潜会のメンバーで、ダイバーの神様に島内案内をしていただき感謝でした。



(南島)



(亀の足跡)



(カタマイマイの化石)



(クジラの尾)



○千尋岩ハイキング

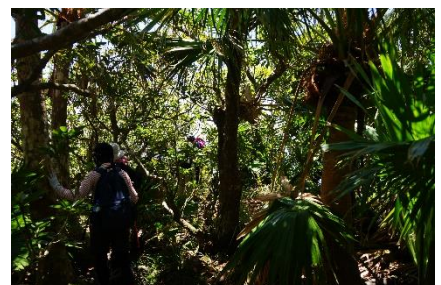
最終日は千尋岩(ハートロック)までハイキング。樹木の繁り方、山並み、そしてリュウゼツランまでもがインカトレイルに似ていてビックリ、松の木が無ければ更に良し。千尋岩からの景色は青く澄み渡る(山では乾燥時) 大海原に南島、二見港、母島が見えました。短期間の旅でこんな絶景にめったに出会えません、ラッキーでした。



(千尋岩からの風景)



(リュウゼツラン)





○お見送り

おがさわら丸が父島を離れる時はダイビングボートがお見送りをしてくれます。黄色い船がカイジンの船。小笠原のマリンレジャーに興味のある皆様はコンタクトされては如何でしょうか。 ダイビングサービス KAIZIN <http://www.kaizin.com>



(父島のお見送り)



(KAIZIN)

※お世話になったガイドの皆様

フィールドエスコート 梅野さん、ソルマル 須田さん、小笠原ツーリスト 佐藤さん

天溪・赤沼